

TV 報道検証【報道特集】 報告書

| | | |
|--|----------|----------------|
| テレビ局： TBS | 番組名：報道特集 | 放送日：2020年5月23日 |
| 出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 | | |
| 検証テーマ： オープニング、コロナ影響が自衛隊にも、WHO が予防接種状況を警告 【特集】 緊急事態宣言下の怒りと失望 【特集】 問題山積！9月入学 | | |
| 報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関西三府県「解除」後の初の週末 ・ 自粛の続く首都圏 ・ オープニング ・ 東京で新たに2人の感染者 ・ 北海道で新たに8人の感染と1人の死亡 ・ マスク通販巡りトラブルが相次ぐ ・ 中国でコロナ倒産や失業で労働者の苦悩 ・ レンタカーの「ハーツ」社が経営破綻 ・ コロナ影響が自衛隊にも ・ WHO が予防接種状況を警告 ・ 中国の感染確認者が初めてゼロに ・ 草津の「湯もみ」や茨城の「瓜連あまや座」が再開 ・ 伊豆大島で住宅全焼 ・ 【特集】 緊急事態宣言下の怒りと失望 ・ 【特集】 問題山積！9月入学 | | |
| 放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし 番組の冒頭で金平キャスターが「余人をもって代えがたいと政府が定年延長した黒川検事長が賭け麻雀で辞職しました。責任は私にある、批判は真摯に受け止めたい、そういえば森法務大臣の前任者、河井克行氏が辞任したときも同じセリフでした。ちなみに無意味なお詫びの繰り返しというギネスブックの記録はまだありません。」とのコメントがされていた。このシーンに当てられた時間は23秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ コロナ影響が自衛隊にも：結論→特に問題なし ナレーションによって「陸上自衛隊は国内最大の実弾演習である富士総合火力演習を離島防衛を想定した内容で実施し、報道陣に公開しました。今年は新型コロナウイルスの影響で一般公開を中止し、インターネットで中継する形とした他、参加する部隊を静岡県と神奈川県に限定し、隊員数もおよそ1800人と去年の6割程度に減らして実施されています。」とのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は33秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 | | |

・WHO が予防接種状況を警告：結論→特に問題なし

ナレーションによって「WHO 世界保健機関などは新型コロナウイルスの影響で少なくとも 68 カ国で定期的な予防接種が中断していると発表、およそ 8000 万人の乳児が麻疹やポリオなど感染症の危機にさらされていると警告しました。都市封鎖による交通網への影響でワクチン供給に支障が生じていることや医療従事者の人手不足などが理由としてあげられています。」とのことが伝えられた。この特集に当てられた時間は 28 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 緊急事態宣言下の怒りと失望：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「特集です、今週は黒川検事長の賭け麻雀辞職、そして緊急事態宣言の関西での解除と慌ただしい動きがありました。」とのコメント、日下部キャスターの「休業で苦しむ中小の事業者にとって希望となるのは政府の給付金ですがトラブルが相次いでいます。緊急事態宣言下の怒りと失望です。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が特集で取り上げられていた。

"ナレ「一昨日、報道陣に囲まれて自宅を出た東京高検の黒川弘務検事長、このあと、辞表を提出した。緊急事態宣言が出されていた今月 1 日と 13 日に新聞記者の自宅で賭け麻雀をしていたことが発覚したためだ、賭け麻雀をしていた 13 日は。」

武田良太（国家公務員制度担当）「黒川さんのためにやった制度改正ではないということをご理解下さい。」

ナレ「検察庁法改正案が国会で審議され、自身についての質疑がかわされていた日だった。安倍政権に近いとされる黒川氏は今年 1 月、異例の閣議決定で定年を延長された。検察庁法改正案はこの決定を後付で正当化する狙いがあるのではと Twitter などでも抗議の声が噴出、国会でも野党から激しく追求され、今週、政府与党は今の国会での成立を断念した。」

金平茂紀「ええ、黒川検事長の賭け麻雀問題で揺れる検察合同調査ビルの前です、全ての検察官は秋霜烈日のバッジを胸につけています。秋の冷たい霜と夏の強い日差しのデザイン、検察官は時の権力から独立して強く厳しく正しい態度と意思が求められているという意味です。黒川検事長の行った行為はこのバッジの精神を裏切る行為と言われても仕方がありません。」

"ナレ「安倍総理は、」

安倍総理「法務省検察庁の人事案を最終的に内閣として認めたものであり、その責任については私にあるわけでございまして、ご批判は真摯に受け止めたいと考えております。」

ナレ「黒川氏の処分は二番目に軽い訓告、6000 万円を超える退職金が支給される見込みだ。」

安住淳（立憲民主党国対委員長）「退職金をもらうような辞任のやり方はダメだと思いますよ。更迭、免職に値するんじゃないですか。」

"ナレ「先週、検察庁法改正案について法務省に反対の意見書を出した松尾邦弘元検事総長、昨日、報道特集の取材に答えた。」

金平茂紀「今回のあの、賭け麻雀の件と言うのは非常に残念な事態だったですね。」

松尾邦弘（元検事総長）「残念ですねえ。」

金平茂紀「検察の独立を守りたいということでお出しになった、あの意見書の趣旨というのはこれで終わったんですか。」

松尾邦弘「いえいえ、そんなことはないと思いますよ、検察というのは人事も含めてですねやはり司法の一部になってるわけなので、やはり検察官の人事もいろんな形でね従来から尊重されてきたんですね、それがなんか色々ゆらぎかねない時代になってきましたので、やっぱり心して貰いたいと思いますね。」

ナレ「新型コロナウイルスの対策が急がれる中、国会が紛糾した黒川検事長の問題。

"その一方、収入減に苦しむ人達の支援策ではトラブルが相次いだ。]

加藤勝信(厚労相)「今回、オンラインの受付システムを開始した早々にですね、こうした事態を招いたことは心からお詫びを申し上げたい。」

ナレ「企業が労働者に支給する休業手当を補助する雇用調整助成金。システムトラブルでオンライン申請の受付が急遽注視となったのだ。また、1人10万円が支給される特別定額給付金でもオンライン申請を打ち切る自治体が続出、申請内容の確認作業が追いつかないためだ。こうした中、安倍総理が強くアピールしたのは。」"

"安倍総理「最大200万円の持続化給付金も何よりもスピードを重視し、入金開始から10日あまりで、40万件を超える中小企業、小規模事業者の皆様に対して5000億円お届けをしておりますが。」

ナレ「収入が落ち込んだ中小や個人の事業者に支給される持続化給付金、申請から3週間立っても入金されない事態が相次いでいることが報道特集の取材でわかった。」

日下部正樹「どうもこんにちは、TBSの日下部と申しますよろしくおねがいします。」

ナレ「都内に住む映像作家のノブさんも持続化給付金を申請した1人だ、スポーツイベントなどを撮影し、映像作品を製作している。」

ノブさん(映像作家)「今、イベント自体が何もできない状態なので。仕事も一切ないですね。」

ナレ「3月から仕事が急減、4月5月の仕事が全てキャンセルとなった。持続化給付金とは一月の売上が前の年と比べ、半減した事業者に支給されるもので返済の必要はない。中小の法人に最大200万円、個人事業者に最大100万円が通常2週間程度で入金されると案内されている。中小企業庁が窓口となっていて、申請はインターネットでしかできない。」

日下部正樹「いつ？」

ノブさん「5月の1日の朝9時ぐらいに申請しました。」

日下部正樹「初日ですね。」

ノブさん「初日のもうオープンしてすぐですね。」

ナレ「ノブさんの受付番号は1600番代、通帳のコピーや確定申告書類、本人確認書類など必要な6つのファイルを添付して100万円を申請した、だが、2週間近くを過ぎても入金がないためコールセンターに問い合わせた。」

ノブさん「コールセンターであったりとか担当者レベルで言うことがバラバラであったりですとか、かと思えばいわゆるテンプレート通りの回答しかない、何を聞かれても『二週間お待ち下さい』しか言えないですとか。」

ナレ「そのうち、持続化給付金を申請した350人ほどでSNSを通して情報交換するようになったが、先週末ほかの人の投稿に衝撃を受けたという。」"

"ノブさん「自分がだいたい1600番くらいの申込み番号だったんです、その時点80000番とか90000番とかの人間が入金ありましたっていう情報がツイッター上では流れていたんですね。」

日下部正樹「完全にこう、すっ飛ばされている。」

ノブさん「すっ飛ばされている状態ですね。まあよくよくTwitterとかで調べてみると同じような状況でまたれている方ってのがものすごく多かったんですね、1日の早い時間で申請したような人が特に多くて。」

日下部正樹「1日にね、こういち早くね申請した人ほど、こう後回しにされているみたいな傾向があるわけですね。」

ノブさん「はい、そういう傾向が見て取れましたね。」

ナレ「ネット上には同じ1日に給付金を申請したが入金がないため廃業を決めた人の悲痛な叫びが見られるようになった。」

ツイート A 「弊社は廃業を決定しました。持続化給付金がもう少しははやく支給されていれば延命できたかと思いますが残念です。」

ツイート B 「従業員と話し合った結果、私も廃業することに決めました、2月から売上0で耐えてきましたが限界です。」

ノブさん「もうちょっと、絶望的だな、と本当にスピードがとにかく遅いとしか言いようがないですね、審査されているのか、それとも不備があるのか、まだ手もつけられていないのか、全くわからないし問い合わせでも教えてくれないんですよね、何で全くわからない状態でひたすら待ってくださと言われてるので、もう不安しかありませんよね、日々が。」

"ナレ「久木田かな子さんも初日の1日に申請した1人だ。声優、役者として劇団を主催している久木田さん、新型コロナウイルスの影響でイベントなどがほとんどキャンセルとなった。」

久木田かな子「流石に生活も本業だけではもうとてもじゃないけれど厳しくなったので、ちょっといま緊急でアルバイトを始めたりとかしてなんとか生活はしのいでいる感じですね。」

ナレ「本業の仕事は4月が二件、収入が3万円台まで減少したため持続化給付金100万円を申し込んだが3週間経ってもまだ振り込まれていない。」

"久木田かな子「その夏にうちは劇団で全国ツアーが決まっていたんですけど、キャンセル料であったりとかやっぱりその間スケジュールをスタッフさん役者さん止めちゃっていたので、あとはもうその公演準備費としてもうすでに小道具とか発注が進んでいたもの、ですね。トータルで40万くらいは。」

ナレ「支払いの期限が迫る一方、彼女の銀行口座には5万円ほどしか残っていない、毎日給付金が振り込まれていないかを確認する日々だという。」

久木田かな子「毎朝、はいていないなというふうに、もうやっぱり一日朝の9時から昼の15時まで何回も常にもう携帯を見てマイページに変化がないか、残高に変化がないか、ずっと毎日見比べていますね。あとから申請した人たちが100万円はいったというのをTwitterで画像であげていたりすると今日も変わらないナチ追うのがどんどんやっぱり心的に圧迫感というか、おられる感じがしますね。」

"ナレ「実は1日に申請し入金がない人には共通点があるという、通常、申請が受け付けられると申請の際に添付して送った自分の個人情報や口座情報のファイルをネット上でいつでもいことができる、入金されないと訴える人の多くはそのファイルが見られなくなっているのだ。久木田さんの場合は売上の減少を証明する売上台帳のファイルが開けなくなった。」

久木田かな子「13日くらいだったかな、のときにどのファイルもパットしても一切開けなくなったんですよ。このページで問題が繰り返し起きました。っていうふうに書かれています。でこれがもう13日からずーっと続いて続いてっていう状態でした。」

ナレ「ファイルが開けなくなりなにか問題があったのかと思ったという。」

久木田かな子「同じようにPDFで送付した初日に人たちが同じようなエラーの画面になって開けないというふうに言われてる人が結構多かったの。」

ナレ「その後、持続化給付金事務局のライン相談窓口にも相談したが十分な回答を得ることができず、入金の日安となる二週間が過ぎた。すると、。」

久保木かな子「16日にここの売上台帳に不備がありますという形でメールが有りましたね、」

ナレ「事務局からの通知はファイルが見られなくなっていた売上台帳に不備があるというものだった、すぐにパソコンに保存したファイルを改めて確認したが記載内容と添付した形式に誤りはなかった。久木田さんは不備があったのは中小企業庁の方ではないかと疑っている。」

"久保木かな子「初日の午前中なんですけれど、やっぱりみんな殺到するじゃないですか、で、私が申請を完了した後に、お昼くらいにですねサーバーが完全にダウンしてしまった時があって、もしかしてその時に何かあったんじゃないかっていう不安はすごくあります、そのファイルが破損して開けなくなったとか、不備って言っているんじゃないかなって、やっぱり情報が渡されていない分こっちは疑いが強くなるんですよ。」

ナレ「中小企業庁も 1 日に申請が殺到しアクセス障害が起こったことは認めている、久木田さんは 16 日、画像を添付し直して最新性をして、それから 6 日後の昨日、100 万円が振り込まれた。」

久木田かな子「まずは一つよかったなという安心感と、同時に一緒にずっと初日から申請をして同じように入金を待っている方は入金されたのだからかっていう気持ちも同時に強くあったって感じですね、週を開けちゃうと 25 日の支払いが待っている人がたくさんいらっしゃるのでもそれまでになんとか安心してほしいという気持ちが凄くありますね。」 "

"ナレ「報道特集が取材した申請者の中には申請した際に添付した個人情報のファイルにアクセスできなくなっている人、添付したファイルの名前が画面に表示されない人がいる、一体何が起きているのか中小企業庁に問い合わせた人物がいる、都内に住むシステムエンジニアの男性、1 日に申請して以来、連日問い合わせを続けたが、マニュアル通りの回答しか得られなかったという。」

持続化給付金を申請したシステムエンジニア『二週間前後お待ち下さい』という回答一辺倒だったんですけども、本当に申請は受理されているのか、データのロストとかそういうところを私も疑い始めて、そういうところの回答をください、という電話をしました。」

ナレ「これに対して中小企業庁はなんと答えたのか。」 "

"ナレ「持続化給付金を初日に申請したシステムエンジニアのこの男性。2 週間経っても入金がないため申請書類のデータの破損を疑い、先週金曜日、中小企業庁に電話した。」

日下部正樹「中小企業庁からどんな返答がありました。」

持続化給付金を申請したシステムエンジニアの男性「5 月 1 日申請の方々の人たちっていうのはサーバーの負荷が当時高かったの、それに対して一分のデータがロストしているということは十分考えられる、これに対しては中小企業庁の不備である、ということは認めていただいて。」

日下部正樹「データがまあ失われたということについては認めたわけですか。」

持続化給付金を申請したシステムエンジニアの男性「添付資料の一部のロストに関しては明確に認めましたね。」

"ナレ「これについて報道特集が中小企業庁に取材したところ、データが破損しているということは確認できていない、と回答した。しかし、自分のファイルにアクセスできなくなるなどのトラブルが起きている人については事務局に書類が届いていない可能性がある、不備のメールが届いた方には修正をお願いしたい、としている。」

持続化給付金を申請したシステムエンジニアの男性「持続化給付金がいま、こういう状況になっているということは普通の国民の皆様は知らないんですよ。」

ナレ「男性は取引先から支払いを催促され、避難されているという。」

持続化給付金を申請したシステムエンジニアの男性「なので、2 週間で入るって政府が言っているんだからなんではっていないの、おかしいでしょ、と逆に責められる。経産省であったりとかが今こういう事が起きていますよと発表していただかないと、私達経営者がこう嘘つき呼ばわりされるんですね。そこが今一番苦しんでいるところです。」

ナレ「男性は初日に申請してから三週間たった昨日、再申請の末、要約入金があったという。一方、郵送などの仕組みがないことから申請そのものできないという相談が相次いでいる。東京北区の中小企業者の団体の事務局長はこう語る。」 "

鳥居峰夫（北区民主商工会事務局長）「ネット申請だけってということなので、まあ中にはスマホではなくていわゆるガラケーっていうんですかね、昔タイプの形態しか持っていない方もいらっしゃいますから、そういった方がフォームを使って ID、パスワードを取るところから全くやり方をどうしていいのかもわからないということで、申請ができないっていう悩みで来られる方が多いですね。相当な方が受けてく設けられない、申請すらできない状況にあるんじゃないかなっていうふうに思っているんですね。」

"ナレ「申請できないという相談は高齢者に限らず 50 代なども少なくないという。中小企業庁は自分でオンライン申請ができない人のための申請サポート会場を全国に設置しホームページや新聞広告で告知したが。」

鳥居峰夫「いや、とにかく、遅い、っていう一言ですよ、その間に、もう家賃を払うとかそういったところが滞ってきて、まあちょっと滞納が始まっちゃうとか、やっぱり誰ひとりね、このコロナの影響で廃業に追い込まれる、そういったことを国の責任として、絶対阻止するんだ、そういった目線でさらにいろいろ対策を打っていただけないかなあと。」 "

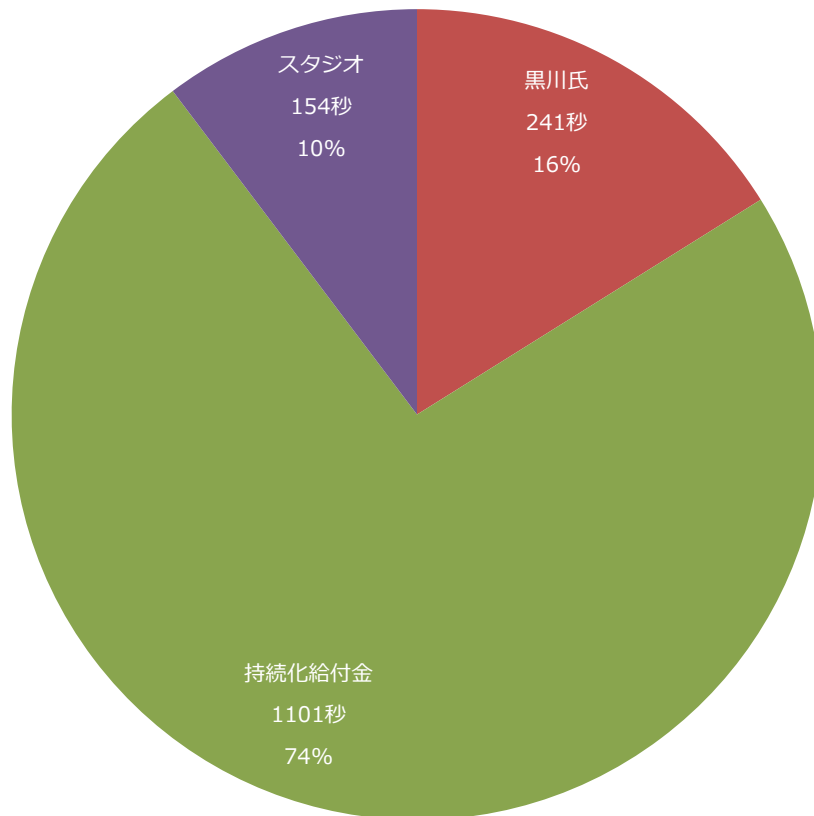
VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

"膳場貴子「取材した記者によりますと、コールセンターは全くつながらない、そしてラインで入金の流れを問い合わせても回答を持ち合わせていませんと放置されて孤立するケースが続出しているんだそうです。まあ経営者にとっては持続化給付金の入金が遅れるだけでなく、自らの信用問題に関わってくる二重の苦しみですよ、救済されるべき人が廃業に追い込まれるのを見ますとね、政府との温度差をどうしても感じてしまいます。」

日下部正樹「そうですね、安倍総理が一昨日の会見でね、何よりもスピードを重視し、40 万件を超える入金を行ったと述べているんですが、実はこの時点で申請を行った人の数は 90 万件、つまり半数以上の数の人がお金を受け取っていませんでした。総理の会見がどうも直接心に響いてこないのは成果ばかりを上げてですね、本当に困っている人が知りたいこと、これに答えようとしていないからだと思うんですね、総理が語るべきは入金した件数ではなくて、入金が遅れている理由。そして入金を目処を責任を持って示すことだと思います。」

金平茂紀「あの、黒川検事長の件ね、短くしかお伝えできなかったんですけども 3 点申し上げておきます。一つは黒川氏は検察のナンバー 2 という位置にあった人ですね、ですから賭け麻雀という方を犯したわけですから、調査じゃなくて捜査が行われるべきですね。ええこれ訓告処分のみで再調査なしというのは一体何を寝言を言っているんだとそういうふうにも言ってもいいと思いますけれども。2 つ目は黒川検事長の定年延長を認めた閣議決定ですけどもこれ VTR 出ていませんでしたけれども、昨日、松尾元検事総長にですねお話を伺ったところ、あの閣議決定は取り消されるべきだというふうにはっきり仰っておりました。ええ、閣議決定というのは今の安倍政権が終わってもまだ実は有効なんですね、そういうことで放ってはおけないということなんです。3 つ目は今回賭け麻雀に現役の新聞記者その OB が加わっていたということでこれはもう恥ずべき事態ですね。僕らの世界ではネタ元に食い込むという言葉があるんですが残念ながら限界を踏み外す記者ってのはいます、それは現実です、僕は実名をあげることはできますけれども、問題はそういう記者たちが書いた記事がですね、どういうものだったのかということきちんと検証してですね、結果としてそれが事実を捻じ曲げたということであれば、その記者は黒川検事長以上に潔く身を処してほしいと思います。黒川氏の辞任を幕引きにはいけないと思います。」 "

この特集に当てられた時間は 1496 秒で時間配分及び比率は以下の通りだった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】問題山積！9月入学：結論→問題あり

膳場キャスターの「続いての特集は、にわかに来年からの実施も検討され始めた9月入学です。」とのコメントおよび金平キャスターの「教育現場が新型コロナウイルスの対策に追われる中、なぜ今議論が活発しているのか？課題山積の9月入学を考えます。」とのコメントを受けて、VTRでは以下に朱記したような特集が取り上げられていた。

"女性「はいこんにちはどうぞー」

ナレ「東京都内に住む諸星めぐみさん。現在産休中だ。9月入学に関するニュースを聞いて、職場への復帰に不安を感じているという。」

諸星さん「来月、予定日なんですけど、この子が4月に保育園に入園予定で、考えていたところも、そこがちょっとまた、保育園も9月入園になってきた場合に、復帰の目途だったりとか、そういったところで、どう響いてくるのかなってという心配はあります。」

ナレ「保育園の年中さんの、長女結花ちゃんも、大きな影響を受ける。同じクラスの春から夏にかけて生まれた友達が、来年年長さんを飛び越え、小学生になるかもしれないからだ。」

諸星さん「同じように上がっていくと思っていたお友達が、いきなり、こう、学年が分かれてしまっているのは、ちょっと寂しいですかね。」

ナレ「9月入学は、一斉休校が長引く中、全国知事会などで、相次いで打ち出された。」

小池都知事「私は長年、この、9月論者の一人でもございます。」

愛知県大村秀章知事「グローバルスタンダードということで9月入学はいずれかは、舵を切らなければならない。」

ナレ「国会で安倍総理は」

安倍首相「前広にですね、様々な選択肢を検討していきたいと」

ナレ「そして今週火曜日、関係省庁等の事務次官等が集まり、9月入学について話し合われた。」

ナレ「このまで文部科学省は、来年から導入する場合の二つのプランを示した。」

ナレ「一つ目は、来年9月の時点で、満6歳に達している児童を、一斉に入学させるというもの。来年度に限り、従来の入学生に加え、9月1日生まれまでの子供を繰り上げる形で、一斉に入学させる。そのため6歳から7歳5ヶ月までの子供が混在し、人数にして、1.4倍の子供達が、一学年に集中することになる。」

ナレ「もう一つは、5年かけて移行するプランだ。来年度は従来の入学生に加え、5月1日生まれの子供が入学する。再来年度は、5月2日から6月1日生まれまでの子どもが、対象に。このように毎年一か月ずつ、ずらしで移行していく。自治体の事務は、かなり煩雑になると予想される。」

ナレ「どちらのプランでも、小中高校の在校生は、来年8月末まで現在の学年に留まることになる。また入試の時期は、5月から6月の間に、ずれることも想定されている。来年から、9月入学が導入されれば、保育園や幼稚園にも、大きな影響を与える実際はどうか。」

膳場「こんにちは？何歳？」

ナレ「東京足立区の保育園。現在は区の通達により、医療従事者の家庭など、一部の子供だけ。給食室が稼働していないため、お弁当やおやつは持参してもらっている。」

ナレ「園長の野村陽子さん。検討されている案で、最も大きく影響を受けるのは、今の年中クラスだと話す。4月2日から9月1日生まれまでの園児が、年長を経験しないまま、卒園する可能性がある。この時期に学ぶべきことが、学べなくなってしまうかもしれないのだ。」

野村園長「ただ預かっているわけではないんです。それを私たち年間でカリキュラム組んで、あの一、この年齢だったら、この力をつけたい育てたい」

ナレ「年長クラスで育てたい力とは、どんなことなのか。」

野村園長「ボタン付いているパジャマを用意してもらって、あえて手先を使うように。園の生活の中でもやっていかないと、指先使わなくなる。筆圧が弱い子が増えていて、そらやっぱり使っていないから握力がない。そうすると学ぶ力にも、繋がっていくので。」

ナレ「足の裏の土踏まずができるのも、年長の頃だと言われていて、子供たちをできるだけ裸足で、過ごさせている。」

ナレ「年長クラスで特に重要なのは、遊びや行事を通して、社会性や、協調性を身につけることだ。」

野村園長「他者との関わりも、遊んだり喧嘩したりということをしないうちは、やっぱり身につけませんよね。保育園・幼稚園の時代って、人間の、でいうと、建物の基礎工事の部分なんです。基礎工事の集大成が、年長の1年だって。集大成ができないことか、中途半端になっちゃう子が出てくるっていうのは、私たちにしたら痛恨の極み。」

園児「これも美味しいの」ナレ「他の園児にとっても、突然クラス編成が変わり、友達や担任と離れることは、辛い経験になる。この園では、9月入学になった場合のスケジュールを書き出していた。スケジュール調整や、カリキュラムの組み直しで、職員の負担が大幅に増えることが、予想されると言う。」

ナレ「園児の親たちは、」

膳場「どうですか、あの、9月入学にもしなったら。」

年中児の親「年長さんで、けっこう楽しみにしてる行事とかが、たくさんあるので、それが全部なくなっちゃったりする。受験とかもね人数が増えちゃうんで、競争率が上がるんだろうな一っと思うんですけど。」

年長児の親「卒園して、1年生になるまでの間って、どういう感じ、小学校の校舎へ行くのか、保育園の中にずっといるのか。勉強面とか、そういうところで何か、遅れが、いままでの事遅れが出ないのかなあーとか、そういうちょっと不安はあります。」

"年長児の親「小学生になりたい？」

子ども「頷く」

年長児の親「なりたい」

子ども「おべんきょうがんばりたい」"

ナレ「野村園長は、早く方針を示してほしいと話す。」

野村園長「メリットがあるのもよくわかります。今1年生にね、なると思う送り出した子供たちが、宙ぶらりんになっているのを見るのも、とても辛いから、だから メリットとデメリットを、ちゃんと精査して、議論を尽くした上で、小さい子にもわかる納得できるような説明をして、物事を進めてほしい。このことにはスピード感ではない、スピードが必要ですね。今の年休を年長に、入れちゃうのであれば、やりたくないけど、急仕上げにやらなければいけないわけですから。」

ナレ「今週自民党と公明党の検討チームは、それぞれ有識者から、意見を聞いた。いずれの場でも、慎重な議論を求める意見が相次いだ。」

ナレ「教育行政学が専門の末富かおる教授は、『火事場の9月入学論』と批判する。」

日本大学 末富芳教授「今無理に、やってしまうと、この世代は一生『コロナ入学世代』とか呼ばれてですね、あの現場の混乱と共に、生きていく、ことになります。その子達が、一生消えない負のレッテルを負うような9月入学、あるいは移行は避けなければならないというのが、私自身の考えです。」

ナレ「さらに、教育現場は今、感染症対策に力を注ぐべきだと、訴えた。」

末富教授「この三密になっちゃってる教室、どれぐらいあるかって言うんですね、30人以上学級だけでも、15万教室あります。その解消こそが おそらく今一番急がれることで、コロナの感染の第2波第三波第4波を繰り返すような教室で9月入学をしたところで、何の効果も得られないのではないのでしょうか。」

ナレ「一方東京・杉並区立和田中学校などで、民間校長を務めた藤原和博氏は、」

藤原元 校長「授業が足りなくなったってということと、9月入学というのは抱き合わせで、このこの政権はよく抱き合わせ製作をやるんですが、やめてほしいです。これについては。現場が混乱するだけです。」

ナレ「休校期間は、春休みは大型連休と重なり、授業時間が少なかった。このため、夏休み短縮し、補習を行えば、主要教科の遅れは、カバーできると藤原氏は考えている。」

ナレ「また9月入学で、グローバル化を図るという議論については、」

藤原氏「世界のトップスクールはですね、年中採用、年中入学なんですね。通年入学が当たり前になろうとしている時に、4月を9月にしてグローバルというのは、これはもう諸外国から笑われます。」

ナレ「急浮上した9月入学。しかし教育現場は今、新型コロナウイルスの対策に追われている。」

ナレ「元気に登校する子どもたち。長崎市内では、先月15日から、新たな感染が確認されていない。今月11日、学校はいち早く再開した。朝、子供たちが真っ先に行うのは・・・」

ナレ「手洗い。そして、うがいだ。教室では窓を開け、換気を徹底。マスクを必ず着用している。」

担任「外から帰ってきて、手を洗いましたか？大丈夫ですか？はいじゃあ健康観察します。」

ナレ「検温結果など、毎朝健康状態をチェックする。感染防止の対策は、学校行事全てに及ぶ。」

校長「これ歓迎遠足なんですけど、歓迎遠足もコロナウイルス対応ということで、お弁当の前には消毒する。シートには一人ずつ座り、全部を変えない中でどう工夫してやっていくかっていうのを、全ての行事で、こう、考

えていく。」

教頭「開始が 10 時 5 分からですね。で、私の方で放送等はしますので、」

ナレ「校長と教頭が話し合っているのは、この日予定している避難訓練について。学校再開後、初めて行われる。感染防止を踏まえた形に、一から作り直した。」

ナレ「今回の目的は、避難経路の確認。教室から校庭まで一列で移動し、集まったが。」

教頭「間隔をもっと取りたいと思います。全員立ちましょう。起立。」

ナレ「実際にやってみると、前後左右の間隔など、密集を避けることが難しいと分かった。」

ナレ「学校が、再開してから見えてきた課題は、他にも・・・」

ナレ「歯磨きによる手洗い場の密集や、飛沫感染への懸念だ。」

教師「ここで食べて磨かせてから、向こうでおしゃべりしたりとか密集しないように」

校長「これだったら大丈夫か。一番飛沫してしまうのではないか。ブラッシングね。」

教師「一番、こう、マスクをつけていないですよ。磨かせてから出た方が」

校長「いいかもしれないね。なるほどね。」

ナレ「体育の授業。おととい文科省は、マスクは必要ないと、通知した。リレーはバトンの手渡しや、応援による飛沫など、完全な予防は難しい。ただ体育には、体を動かすだけではない『学び』が詰まっているという。」

校長「やっぱりリレーをすると、ついつい『頑張れ』って言うんですね。工夫をしたり励ましあったりしながら、友達と一緒に自分の力をいくってというのが、体育の学習の目的なのですね、密閉された室内だったら、マスクをしてっていう風になるんですけど、まあこういうこうね、環境的に換気がいいところでは、ある程度思いっきり声を出すっていうのも必要じゃないかな。そうしないと、そう、本来の学ぶべきものが、ちょっと、なくなってしまうのかな。」

ナレ「児童が下校した後、全ての教室のアルコール消毒を、教師全員で毎日行なっている。」

教師「子供達で触るところは違うんですけど、だいたいやっぱり机の端っことか、後は、引き出しのところ。はするようにしてます。あと教卓も結構を触るんで、」

ナレ「手探りの感染症対策が続く。9月入学案について校長は」

長崎市立諏訪小学校 山田圭二校長「今はとにかく、この、この休校期間の学ぶべきものを、どう補償するのかっていうことで、精一杯。今の新型コロナ対策をどうするかっていうところで、頭を悩まされているという現状です。そこをしっかりと、考えるって事が、子供達の為になるんだろうなって思ってますね。『新型コロナだから制度を変える』っていうんじゃなくて、子供達の学びのことを考えて、っていう視点で議論していただけたら、」

ナレ「一方東京など、まだ再開していない学校では、昨日、板橋区にある公立小学校。教員たちが、自宅にいる子供たちに、オンラインで見てもらおう動画の撮影をしていた。」

教師「リズムよくいけますか」

ナレ「自宅で、楽しく体を動かしてもらおうというものだ。」

教師「それでは皆さん休校中ですが、このリズム運動をして、みんなで楽しく運動をして行ってください。」

ナレ「この学校では、家庭学習できるよう、学年ごとに様々な教科の動画を配信している。」

記者「評判とかはどうでした？」

高島第一小学校杉本昌彦校長「保護者にも子供達にも、とってもいいですね。なんとなく学校に行った気分になるようで。」

ナレ「さらに、今週から、希望する児童に対して、感染予防策を徹底した上で、少人数での学習支援の取り組み

を始めた。子供達は、学校に来て、課題を解いたり、担任の先生に、家庭学習でわからなかったところを、聞いたりすることができる。」

教師「これから学校が始まったら、どういうことをしたいか。どんなことを頑張っていきたいのかっていうのを・・・」

児童「自粛が終わったら、みんなと、あの、会って、いっぱい話したい」児童「みんなと思いきり遊びたい。」

ナレ「板橋区では、学校が再開すれば、子供たちの学習の遅れを取り戻すため、土曜日の活用や、夏休みの短縮を検討している。安全面から、修学旅行や、複数の学校が集まるスポーツ大会などは、中止することにした。」

ナレ「様々な対策を打つ中で、浮上してきた来年からの9月入学案について、校長は」

高島第一小学校 杉本昌彦校長「私は、来年の9月から始めるのは、無理だなーと思っています。教員もたくさん必要になってくるだろうし、今日しても必要だと思います。様々な制度もですね、ただ入り口だけではなくて、出口の方も整備しないと、先ほど言ったように不安を感じる人がいると思うので、それを1年少しの間でやるのは、難しいんじゃないかなと」

ナレ「保護者からは」保護者「グローバルの話は、聞いてますけども、それだけで、全体的に動かすってことが、果たして、子供達にとっても、社会にとってもいいことなのかっていうのが、ちょっと不安ではありますね。」

ナレ「一方で、中学3年の子を持つ母親は、」女性「やっぱりこの短い期間で、受験とか、後は子供たちが楽しみにしていた行事ごとがなくなるって言うのは、すごく親としても、子供としてもすごく、悲しいことなので、9月から入学で1年間を迎えられて、安定した学校生活を送れるのはすごくいいなとは思いますが、どちらとも言えないんですけれども、」

ナレ「ここに来て、なぜ9月入学に関する議論が、活発化しているのか？文部科学省の元事務次官前川喜平氏に聞いた。」

前川氏「9月入学っていうのは、まあ何か新しい改革、何十年間できなかつたという改革をやるんだと、そういうイメージを打ち出すためには、まあ、いいと思ってるんじゃないかと思ってるんですけどね。」

金平「誰が？」

前川氏「まあ官邸の、官邸の知恵のある人と思われている人たちがね、」

金平「文科省ではないんですか？」

前川氏「文科省ではありません。文部科学省の役人は、おそらく一人として、これをやるべきだと、思っている人はいないはずですよ。こんなこと今やるべきではないと、これはもう文部科学省誰に聞いても、そう言うはずですよ。」

ナレ「9月入学は、30年以上前、中曽根内閣時代にも、議論されている。準備期間をおいて実施するとの結論が出されたが、その後、議論は立ち消えとなった。」

前川氏「きちんと、冷静な状況のもとで、広く国民的な議論をすると。それならまだ分かりますけれども、このコロナ対策しなければいけない時に、同時並行で、この9月入学を議論するっていうのはね、あの、はっきり言って馬鹿げてますよ。しかもこれ文部科学省だけではなくて、霞ヶ関中、巻き込まれているわけですから。これはね。ものすごく、無駄なことをさせられている。今やらなければいけないことを放っておいて、今やらなくていいことに、今、ものすごくエネルギーを割かれている」

ナレ「前川氏は、9月入学や、経済活動大会の議論が先行し、休校が長引く状態に憤る」

前川氏「ものすごく大きな損失が生まれているんですね。休校によって。でもそれはお金になかなか換算できない、子供達の時間という損失なんですよ。子供達は休業補償しろって言わないわけですよ。これ学習の遅れだけではなくて、もう食べることに困ってる子供がいるわけですよ。学校給食がないことによって、まさにもう

生存そのものが危うくなっている。さらにあやうくなっている子供達は虐待ですよね。」

ナレ「今取り組むべきは、学校再開に向けた議論だと、主張する。」

前川氏「再開した時に三密にならないように、それこそ、その、大改革っていうんだったら、この際 30 人学級やりましょうよ。このそのためだったらね、お金賭ける価値あると思うんですよ。先生もね補充的な学習のための先生を配置してね、遅れている子供たちの、遅れを取り戻す。そういった手当てを取っていくと」

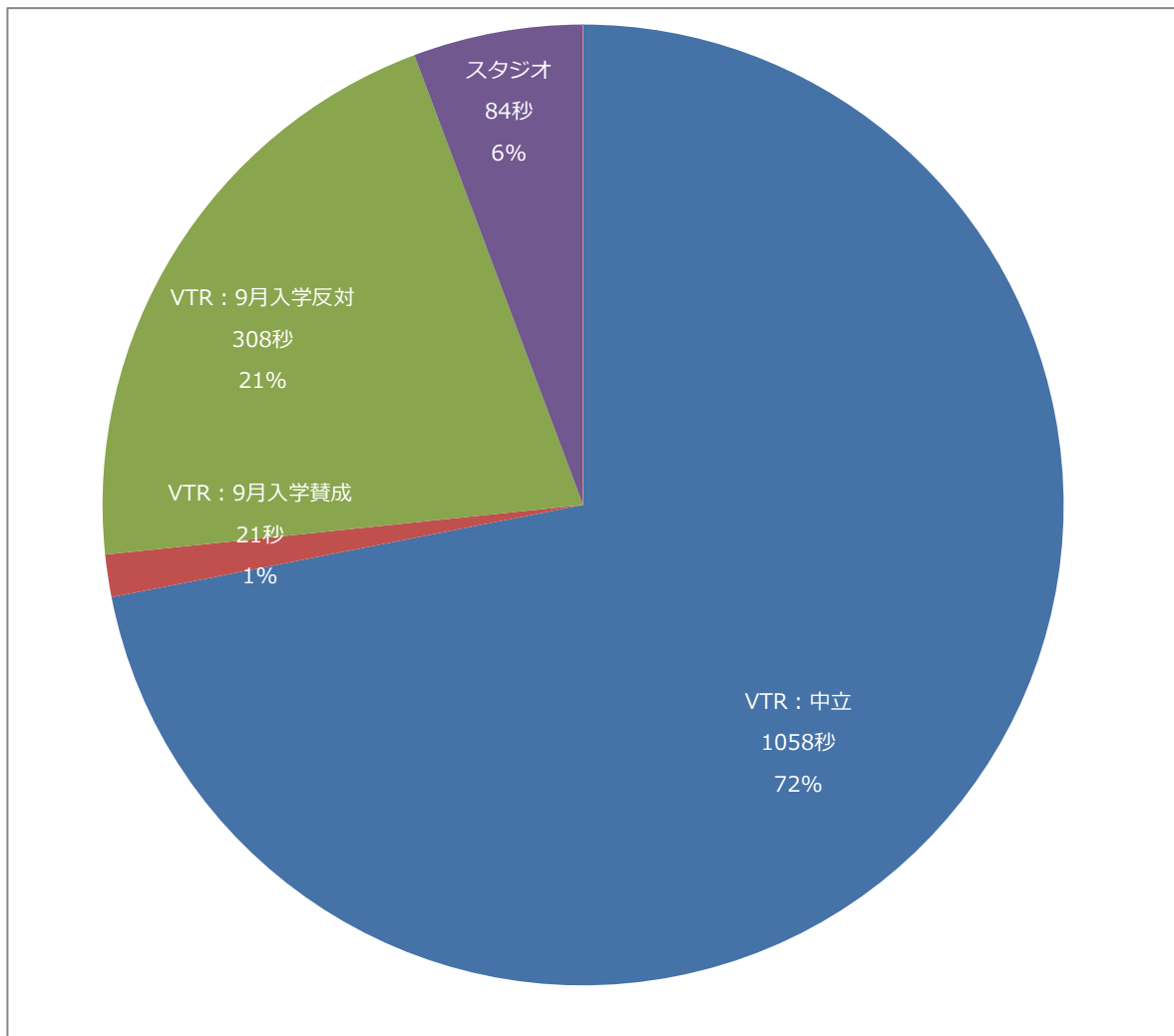
VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

膳場「教育現場を取材すると、休校中のオンライン授業や、こどものフォロー、あと、学校再開後のコロナ対策など、学校運営、これ保育園もですけども、今大きな負荷が掛かっています。そんな時に制度変更っていうのは、現場をさらに疲弊させることになります。コロナ対策で真っ先に子供たちの学ぶ場、集う場が、奪われた上、今度は制度にも振り回されるというのは、一保護者としては、子どもをもっと大切にしてほしいと感じますね。」

日下部「そもそもね、授業の内容とか、学校教育のあり方についてグローバル化って進んでいるんでしょうか？それを伴わないで、時期だけグローバル化してもですね、あまり意味ないし、混乱招くだけだと思いますね。」

金平「前川喜平さんが仰ってましたけれどね、文科省の現場でさえ、なんで今 9 月入学の仕事させられるんだっていう不満が渦巻いてるって事なんですけども、やっぱりその頃な対策っていうのを今ですね、教育現場できちんとやってですね、できるだけ早く、学校っていうのは、再開したほうがいいんじゃないかって言う風に僕は思いますけどね。」

この特集に当てられた時間は 1471 秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。



この特集でも9月入学の議論自体は度々取り上げられていたものだと説明されていたが、その割には従来の9月入学賛成論の論拠を紹介した場面があまりにも薄く、報道全体として、反対論に偏った物となっており、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に反するものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
とくになし

検証者所感

・【特集】緊急事態宣言下の怒りと失望

ナレーションが「検察庁法改正案はこの決定を後付で正当化する狙いがあるのではと Twitterなどで抗議の声が噴出、国会でも野党から激しく追求され、今週、政府与党は今の国会での成立を断念した。」と説明していたが、そもそも遡及法は適用されないというのが法律の大原則なのだから、後付で正当化すること自体が不可能であって、本当に政府が正当化する狙いがあるのであれば、わざわざ法案を提出しなかったのではないだろうか。この件に関してはあまりにもストーリーありきで報じられているようなきらいが見受けられた。

また、金平キャスターはスタジオでは「僕らの世界ではネタ元に食い込むという言葉があるんですが残念ながら限界を踏み外す記者ってのはいます、それは現実です、僕は実名をあげることはできますけれども、問題はそういう記者たちが書いた記事がですね、どういうものだったのかということをきちんと検証してですね、結果としてそれが事実を捻じ曲げたということであれば、その記者は黒川検事長以上に潔く身を処してほしいと思います。黒川氏の辞任を幕引きにははいけないと思います。」と語っていたが、そういうことであれば、やはり参入がより困難なテレビこそ、電波という既得権益のもとにどういった報道がなされているかということもきちんと検証することが重要だと改めて感じさせられた。

・【特集】問題山積！9月入学

この特集のVTRで前川喜平氏のコメントが元文部科学事務次官のコメントとして取り上げられていた。しかし、この前川氏という人物、出会い系バーに入り浸るといって教育・文教政策を司る文部官僚としては些か品位に欠ける行為をしていたのみならず、文部科学省の組織的な天下り斡旋（再就職等規制違反）という腐敗の中核にいた人物で、それが理由で懲戒処分を受けた人物でもある。

今、世間を騒がせている黒川氏の賭け麻雀については、昭和的な政界での「裏金のやり取り」の隠語としての賭け麻雀ではなく、それが文字通り単なる賭け麻雀であるならば、その賭け金が社会通念上許容されるか否かで合法違法が変わってくる場所であるが、前川氏の事例についてはその違法性は明確である。こうした前歴を持つ人物を出して文科省をレペゼンしているかのように取り上げる、というのはTBSおよび報道特集はどういう見識なのだろうか。9月入学反対の議論を補強するために簡単にメディアに出てくれる前川氏の声を取り上げているのか、それとも、文科省というのはこういうとんでもない人物を次官にしてしまうような役所なのだと思えるがために前川氏を取上げて取り上げているのか、いずれにせよ、本来、文科省をレペゼンして語るような資格のない前川氏をいかにも文科省レペゼンであるかのように取り上げる、報道特集およびTBSの姿勢には疑問を感じざるをえない。